

放射線の健康影響に係る研究調査事業 令和 7 年度 年度報告書

研究課題名	放射線による健康影響不安を考慮した AYA 世代がん患者に対する包括的なピアサポート体制の構築
令和 7 年度研究期間	令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 2 月 28 日
研究期間	令和 5 年度～令和 7 年度（3 年目）

	氏名	所属機関・職名
主任研究者	佐治 重衡	福島県立医科大学腫瘍内科学講座・主任教授
分担研究者	桜井 なおみ	キャンサー・ソリューションズ株式会社・代表取締役社長

キーワード	AYA 世代、甲状腺がん、健康不安、ピアサポート
-------	--------------------------

本年度研究成果
I 研究背景 AYA 世代（15 歳以上 40 歳未満）のがん患者は、全がん罹患患者数の約 2%と患者数が少なく、罹患臓器も多岐に及ぶため、1 つの医療機関や診療科で同世代の患者と出会える機会は成人がんや小児がんのそれと比べると少ない。また、心理・社会的成長期におけるがん罹患は、成人とは異なる多様な相談ニーズがあり、その内容や社会属性、居住地なども成長に応じて移行していくことから、医療機関内と地域が連携をして、長期的に支援をしていくことが重要である。 福島県においては、これら若年世代特有の悩みに加え、遺伝や二次がんへの不安や放射線による健康影響への不安、さらに放射線影響に対する社会側の誤解や偏見への対処なども考えられることから、当事者ニーズに対応した、よりきめ細かいフォローアップ体制の構築が必要である。 II 目的 AYA 世代発症のがん患者の悩みや不安、孤立感を和らげるための一つの方法として、AYA 世代発症の成人がん患者を対象とした包括的、かつ、継続的な心の支援体制（ピアサポート）の構築を目指す。 本年度は、これまでの知見を活かした実践活動として、対面・オンラインの 2 つの形態による「1. AYA 世代がんピアサポート体制の検討、2. ピアサポート活動に関わるポータルサイトの整備、3. ピアサポート運営マニュアル、ピアサポーター養成研修資材の整備」を行う。 III 研究方法 1. AYA 世代がんピアサポート体制の検討（主任研究者：佐治、分担研究者：桜井） 1)医療機関での対面型ピアサポート体制の検討：診療科間の連携を強化することを目的に多職種参加型のチームビルディング研修を行うことを検討した。研修は、福島県立医科大学内、県立医大と連携する県内のがん診療連携拠点病院との合同研修会を 2 回開催した。 2)オンラインでのピアサポート体制の検討：前年度に引き続き、毎月 1 回のアバターを活用した

交流会、ピアサポーター研修会を開催した。

2. ピアサポート活動に関わるポータルサイトの整備（分担研究者：桜井）

全国の AYA 世代がん患者のピアサポート活動情報や患者会検索ができるポータルサイト「AYA ノマド」を開設するとともに、メールマガジン、ニュースレター、SNS を活用した広報、社会発信を行った。

3. ピアサポート運営マニュアル、ピアサポーター養成研修資材の整備（分担研究者：桜井）

研究終了後も継続して AYA 世代ピアサポーター養成活動が展開できるよう資材を作成した。

IV 研究結果、考察及び今後の研究の方針

1. AYA 世代がんピアサポート体制の検討（主任研究者：佐治、分担研究者：桜井）

1)医療機関での対面型ピアサポート体制の検討：研修会（Crosslink 研修会）は、施設内体制整備と同時に、地域の連携（窓口・紹介・情報共有）を前提に実施し、①顔の見える関係づくり（県内の多職種・多施設の相互理解）、②できていること／できていないことの可視化と課題共有、③今後の実践計画を多職種で検討し、施設内外の連携アクションプランを作成した。研修会前後の知識・理解の自己評価（5 段階）解析により、「AYA 支援チームの役割と構築に必要な視点」、「自施設での AYA 支援体制の現状把握」の事項について有意に改善が見られた。

●第一回：福島県立医科大学内での多職種連携、2025 年 8 月 31 日（日）、参加者：多職種 18 名

●第二回：福島県内のがん診療連携拠点病院、2025 年 11 月 16 日（日）、参加者：8 施設 27 名

2)オンラインでのピアサポート体制の検討：R7 年度に 9 回で参加者 65 人がオンライン交流会に参加した。アバターを使うことで、見た目を気にすることなく、AYA 世代体験者として交流できることが、参加者、サポーター側、双方にとっての利点となっている。事前事後アンケートの結果によると、「問題解決（期待）→解決できた」「つながりたい→つながりを感じた」「気持ちラク（期待）→ラクになった」の項目では減少者が 0 名であり、方向性の一貫した改善傾向が認められた。また、事後アンケートの結果、「全体満足度」は 93%を超えており、自由記述からは情緒的サポート、情動的サポート、所属感・孤立感の軽減に関する声が寄せられ、AYA 世代特有の構造的孤立に対するピアサポートの意義を端的に示している。

3)ピアサポーター養成研修会の開催：日本サイコオンコロジー学会の協力を仰ぎつつ、2025 年 7 月 26 日（土）に研修会を開催、がん体験者 7 名、オブザーバー（医療者）1 名が参加した。

2. ピアサポート活動に関わるポータルサイトの整備（分担研究者：桜井）

AYA 世代がん患者のピアサポート活動情報や患者会検索などができるポータルサイト「AYA ノマド」を開設した。今後は関連する学会、患者団体、福島医大ホームページとの相互リンクを行い、社会に開いた情報発信をするとともに、アクセス解析等を行うことを検討する。

3. ピアサポート運営マニュアル、ピアサポーター養成研修資材の整備（分担研究者：桜井）

研究終了後も継続して AYA 世代ピアサポーター養成活動が展開できるよう、①AYA 世代がん患者を対象としたピアサポーターの研修テキスト、並びに、補足動画の作成、②開催に際して運営する側の手順をまとめた開催マニュアルをとりまとめた。これらは Web サイトから入手可能とする予定である。

V 結論

AYA 世代のがん体験者の支援については、対面型の支援よりはむしろオンラインなどデジタルツールを活用した支援が適切であると思われる。本研究により、今後の支援活動に必要な体制、

並びに資料について成果を得ることができた。これらの資料はポータルサイトなどに掲載するとともに、一般社団法人 AYA がんの医療と支援のあり方研究会との相互リンクによる連携などにより、継続した全国での支援実施、研修の開催を目指す。

VI 引用文献

特になし

VII 令和7年度研究成果公表（本研究内容に限る） ※下線は主任研究者・分担研究者

・ 桜井なおみ, 駒形千鶴子, 白浜若菜, 木村礼子, 佐治重衡, 放射線による健康影響不安を考慮したAYA世代がん患者に対する包括的なピアサポート体制の構築 ～福島県出身AYA世代がん体験者の精神不安の現状調査～, 『AYAがんの医療と支援』 Journal of AYA Oncology Alliance, 2026, 6(1), p. 34-40. 査読あり, published

・ 桜井なおみ, 白浜 若菜, 駒形 千鶴子, 佐治重衡, 木村礼子, AYA世代がん患者に対する包括的なピアサポート体制の構築～クラスター分析を用いたパーソナリティの把握～, 第7回 AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会, 2025年5月, 東京, 口演, 一般, 国内

・ 木村礼子, 桜井なおみ, 駒形千鶴子, 白浜若菜, 佐治 重衡, AYA世代がん患者の心理社会的支援ニーズ：全国と福島県の比較から, 第23回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2026年3月, 横浜, ポスター, 一般, 国内

以上